



2019年9月13日 第144号
北九州労健連ニュース

TEL 093-871-0449 FAX 093-872-3695

〒804-0094 北九州市戸畠区天神1-13-13 シティーム天神1F

北九州労働者
の健康問題連
絡会議 発行<http://rokenren.com/>

学校ウォッキング -北九州小中学校施設調査-

福建労北九州支部が加盟する北九州市の公共施設を良くする会は8月21日（木）、市内の小中学校の施設調査を行う学校ウォッキングを実施しました。

12年目となる今年も市内7区を7班に分かれ午前と午後で計14校を視察し、延べ52団体110人が参加しました。

若松区の石峯中学校では、前回12年前に視察した時の改善要望箇所がどうなったかを含めて点検し、その時に指摘したクラックの補修や金属屋根の全面取り替えなどが行われており、改善要望が実を結んでいることが実感できました。

しかし、新たに天井板がたわみ今にも落下しそうな危険個所も見つかり、一度視察したら終わりではなく、継続的な取り組みが必要であることも分かりました。

また、新たな取り組みとして、教育委員会の了承を得て、九州社会医学研究所の協力のもと、同研究所が所有するアスベストアナライザー（7秒でアスベストを検知・720万円）を使った、アスベスト建材の確認も行いました。

若松区の藤木小学校と石峯中学校の視察にアナライザーを使用し、両学校とも天井に貼られている石膏ボードと、内壁の塗装がはがれて露出したセメント部分でクリソタイル（白石綿）が検知されました。

屋外にある倉庫のスレート屋根や特別教室のスレート屋根では目視でもアスベストが含有していることが見受けられましたが、アナライザーで検知するとやはりクリソタイル（白石綿）



天井測定中



測定結果

が検知されました。

同行した校長先生も子どもたちの安全の問題としてメモを取り、アスベスト建材の含有箇所と今後の対応などを質問し、福建労北九州支部の川上洋一さん（設計士・副支部長）がアスベスト被害の特徴を語り、天井や壁などでは破損や穿孔（穴を空けた）部分が見られる箇所について、藤浩二さん（大工・執行委員）が取り替えや囲い込みなど対応策を伝えました。

同行した九州社会医学研究所の青木代表幹事は、総括で「行政が再調査を行い解体・改修に向けた管理を行うことが大切。学校側も知っていると知らないでは対策に大きな違いが出る」と語り、いまだ多く含まれているアスベスト建材による被害防止対策の必要性を改めて実感する取り組みとなりました。

今回も改善要望箇所をまとめて、市教育委員会へ提出し、学校環境と周辺環境も含めた改善とアスベスト含有建材の再調査を含めた飛散防止の管理を求めていきます。

（福建労北九州支部・平安将隆）



前回のウォッキングでの指摘箇所



今回のウォッキングで改善
されていることを確認

第30回なくせじん肺・アスベスト全国キャラバン北九州集会開催

今年は、30回目の節目の年ということ、また九州建設アスベスト第1陣の福岡高裁判決が一か月後に迫っているということで、全国キャラバンは9月30日全国から集結し「長崎北松じん肺の碑」で出陣式と慰靈祭を行います。

九州では長崎（10/1）→佐賀（10/2）→大牟田（10/3）→熊本（10/4）→鹿児島（10/7）→宮崎（10/8）→大分（10/9）→北九州（10/10）→福岡（10/10）と各地で行政への要請行動や集会などが取り組まれます。

北九州では・・・

10月10日（木）18：30～20：30 戸畠生涯学習センターに於いて開催します。北九州労健連は昨年、北九州市への要請懇談会で「アスベストアナライザー」を市独自に導入して欲し

いと要望しました。

昨年度末（2019年3月）市はアナライザーを購入、新年度（2019年4月）よりアナライザーを活用した取り組みを進めています。

今回の企画のメインは、市の出前講座が実現したことです。北九州市環境局監視課から「北九州市における解体工事におけるアスベスト暴露防止対策」などを講演してもらいます。また、当日は「アナライザー」の実演もあるようです。

この他、解体工事を実際行っている方からの話や北九州労健連アスベスト対策委員会の活動報告、九州建設アスベストの到達点など盛りだくさんの企画となっています。多くの方の参加をお待ちしています。

[社医研 青木珠代]

北九州市の教育現場の状況の一端

[全教北九州市教職員組合 大島 正]

教員が足りなくて、年度初めから担任がいない。産休・育休や病気休職の代替教員が見つからない・・・全国的にも「教育に穴があく」という事態が常態化して、学校現場の教職員に負担がかかり、子どもたちが犠牲になっています。北九州市も例外ではありません。

教員不足の原因は色々と考えられますが、今回は北九州の現状の一端を報告します。

○権限移譲による条件低下～地域手当を中心

政令指定都市に権限移譲がなされて3年目になります。福岡県の教職員は、県と北九州市と福岡市に3分割されました。給与を含めて待遇がそれぞれ違うようになりました。特に問題なのが、地域手当の違いによる給与格差です。一番高いのは福岡市(10%)です。次に福岡県(5%)、そして一番低いのが北九州市(3%)です。福岡市と北九州市との格差は、若い人でも月に1万5千円ほどで、ベテランでは3万円近くになります。ボーナスにも勿論反映されて、若い人で25万円ほど、ベテランでは50万円近くの差になります。県と北九州市の格差は、若い人で月5千円ほど、ベテランでは1万円ほどになります。「権限移譲によってモチベーションを下げないようにします。」と総務省も文科省も北九州市の教育長も言いましたが、これでモチベーションが下がらない人がいるでしょうか。

モチベーションの低下は現職の教職員だけではなく、採用試験の受験者にも見られます。

○採用試験の倍率～倍率が低い北九州市

地域手当の違いによる給与格差の拡大や権限移譲による労働条件の低下や長時間労働などの「教職員のブラックな働き方」が広く知られるようになってきたこととも関連すると思いますが、教員を志願する人が減り続けています。

9月1日の朝日新聞1面に、「教員志願者 減

少続く 長時間労働問題 影響か」という見出しの記事が載っていました。それによると、「18年度から雇用された教員向けの採用試験の受験者は公立小中学校教員計で約10万5千人、19年度は約9万8千人。同時に採用者は増えているため、採用試験の競争率(倍率)は下がっており、19年度は小学校が約2.8倍、中学校が約5.5倍だった。教委側は『教員の質に影響が出かねない』と懸念している。」というような内容です。

さらに、27面には「『教職はブラック』学生敬遠」という見出しで記事が載っていました。そこに、次のようなタイトルの表がありました。

2019年度の教員採用試験の競争率(倍率) が低かった教委と高かった教委

| 小学校 | | 中学校 | |
|--------|------|--------|-------|
| 新潟県 | 1.2倍 | 北海道 | 2.4倍 |
| 北海道 | 1.3倍 | 新潟県 | 2.4倍 |
| 福岡県(☆) | 1.3倍 | 山形県 | 3.1倍 |
| 佐賀県(☆) | 1.6倍 | 茨城県 | 3.1倍 |
| 北九州市 | 1.7倍 | 北九州市 | 3.3倍 |
| : | | : | |
| 福岡市 | 5.0倍 | 京都市 | 10.2倍 |
| 三重県 | 5.1倍 | 三重県 | 11.1倍 |
| 相模原市 | 5.1倍 | 沖縄県(☆) | 11.3倍 |
| 高知県 | 5.9倍 | 宮城県(☆) | 11.3倍 |
| 兵庫県 | 6.1倍 | 福岡市(☆) | 14.1倍 |

※朝日新聞まとめ。競争率は<受験者÷採用者>。☆は、小中または中高で一括募集や併願の制度などがある教委で、受験者数はいずれも中学に算入

北九州市は小学校も中学校も倍率の低い方に入っていますし、福岡市はいずれも倍率の高い方に入っています。給与を含めた労働条件の良いと考えられている福岡市に受験者が流れて行っているのではないのでしょうか。

○「教科担任制」～「働き方改革」につながるのか？

県内最低の給与で働いている北九州市の教職員は、今年度さらなる課題に直面しています。それは、「教科担任制」という「まやかし」です。なぜ「まやかし」かというと、もともと北九州市の小学校には専科の先生がいなくて、担任が全ての教科を教えなくてはならない状況でした。さらに、昨年度から外国語（英語）の先行実施が始まり、4年生以上は月曜日から金曜日まで毎日6時間授業になりました。国語、社会、算数、理科、英語、音楽、図工、家庭、体育、道徳、総合的な学習とトイレに行くことも我慢して子どもたちと向き合うような状況でした。そこに、先ほどの「教科担任制」の導入です（17校）。これは、中学校の体育の先生を小学校に異動させて、学級担任として自分のクラスの体育と道徳、学活を受け持たせ、残りの時間で同学年や他学年の体育だけを教えます。ですから、体育以外の教科は他のクラスの先生が教えるというなんでもない制度なのです。純粋に「専科」の先生として体育の先生を小学校に派遣するならまだしも、「担任をしながらの体育専科」なので配置された小学校現場は大混乱しています。

中学校から来た体育の先生は、30時間中5、6時間しかクラスの子と接せず、子ども達との関係作りもできず、慣れない小学校の教材も教えなくてはなりません。周りの先生たちも自分のクラスだけでも大変なのに、体育専科の先生のクラスの授業（体育以外）も分担しなければならないような状態です。

「働き方改革」の一つとして導入された体育の「教科担任制」ですが、現場の意見もきちんと聞かずに導入されたために、時間割の調整が大変になったり、複数学年の教科を受け持つ先生の負担が増えたり、生活指導に支障をきたしたりと小学校現場では不満の声が上がっています。しかし、一部のマスコミでは成果が出ているような報道までされています。来年度はさらに実施校を増やそうと教育委員会は考えているという情報もありますので、現状や問題点をきちんと把握して、組合でも改善を要求していく必要があります。

○この他にも、「給特法」と長時間労働の問題、「変形労働時間制」の導入が狙われているなどの問題がありますが、次の機会に回したいと思います。

北九州労健連第30回定期総会 & 第31回人間らしく働くための九州セミナーin 北九州現地実行委員会結成総会

来る10月19日（土）13時～14時15分、健和会複合施設地域交流センターに於いて30回目となる定期総会を開催します。また、来年2020年11月14日～15日ウェルとばたをメイン会場として31回目となる九州セミナーを開催します。そこで、労健連総会に引き続き14時30分から現地実行委員会の結成総会を行います。

北九州は10年振り4回目の開催現地となります。関心があるみなさん！現地実行委員会に入って一緒にセミナー運動を活性化させましょう！待ってま～す。

